

(様式第4号)

第三次上田市文化芸術振興に関する基本構想策定委員会 会議概要

1 審議会名	第三次上田市文化芸術振興に関する基本構想策定委員会
2 日時	令和7年8月20日 午後1時30分から午後3時まで
3 会場	市役所南庁舎 5階会議室
4 出席者	荒井洋文委員、児玉卓文委員、佐藤和雄委員、高木夏子委員、竹田貴一委員、手塚早由委員、増田榮美委員、南村昭夫委員、村上香屋子委員、八木叶子委員、山本進委員
5 市側出席者	小林文化スポーツ観光部長、春原文化政策課長、荻原交流文化芸術センター館長、堀内交流文化芸術センター副館長、山寄市立美術館館長、古平生涯学習・文化財課 文化財保護担当係長、宮下文化政策担当係長、
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年9月12日

協 議 事 項 等

1 開 会 (文化政策課長)
2 あいさつ (土屋市長)
3 人事通知書の交付
4 委員・事務局職員の自己紹介
5 会長・副会長の選出
6 諮問
7 策定委員会組織と役割について
8 上田市文化芸術振興に関する基本構想について
9 今後のスケジュールについて
(事務局) 現行の第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想と今後のスケジュールについて説明
(会 長) 第二次基本構想について説明したが、委員の皆さまから質問・御意見があったらお願いしたい。今日は二次についての説明と第三次を策定するにあたっての意見でもかわない。
(委 員) 取組結果については10月3日までに知ることができるのか。
(事務局) 取組結果については、これから取りまとめを行って、次回の10月3日の第2回の会議で示したいと考えている。
(委 員) 第二次の構想の中でサントミュージゼを核としたという言葉が入ってくるが、上田市は合併後いろいろな所に文化創造への支援の施設があり、サントミュージゼはその1つ。サントミュージゼを核としたという言葉が入ってきた経緯を教えてほしい。例えば丸子にはセレスホールがあり、真田、武石などの地域にも核となる施設がある。地域の核となる施設を通して支援していくよという言葉の方が私はしっくりするような気がする。サントミュージゼを核としたって、真田や武石や丸子の方はサントミュージゼが核という言葉がどうもしっくり入ってこない。
(事務局) 前回第一次と第二次は教育委員会で作っていた計画が、初めて第三次からは市長部局と言

って、市長直轄の組織で作ることになった。10年前はサントミュージゼが作られ上田市の中でもサントミュージゼの位置づけが非常に難しい時期があり、サントミュージゼをどういった施設にしていきたいかという思いもあってそのようになっていく。

(委員) 今後、光熱費を徴収するような方向になっていくという話が色々なところから聞こえてくる。文化芸術の支援と新しい文化の創造ということの基本構想に謳うとすれば、光熱費の受益者負担は残念であるという意見が団体から出ている。片方では素晴らしいことを謳っているが、片方では「光熱費の負担をお願いしたい。」となってしまうと、末端の芸術文化活動が先細りになる危険性があると考えざるを得ない。そのあたりについて、どういう考え方でいけばいいのかお話しいただきたい。

(事務局) 公共施設の受益者負担の在り方については、市の方は一定の受益者負担を頂こうと検討はしているが、最終的にはどのくらいもらうかについては決めていく話になる。市でも最大限皆さんの声を聞く努力はしている。最終的には方向性については、今後最終決定をしていくということになる。

(会長) 光熱水費の問題は、次期構想に入れることができるのか、なかなか難しい問題でもある。他に二次の内容だけではなく、今後の策定に係る意見をいただきたい。

(委員) 次回、取組結果についての資料を出していただくときに、可能であれば市内で文化芸術活動に携わっている団体等のリストがあると良い。「文化芸術などを支える団体・人材を育成します」とあるので、上田市にはどういう文化芸術団体があるのか、団体のリストがあると全体像を把握しやすくなるし、市民との協働という点で話しやすくなる。可能であれば、リストがあればご提示いただきたいし、なければ作成をお願いしたい。

(事務局) 全部の団体をこちらで把握することは難しい。検討させていただきたい。

(会長) 出来る限り活動の内容まで簡単に書いていただけるとわかりやすいかと思う。

(委員) 今年仏像展があったが、広報が行き届いていたのかどうか疑問に思う。今後第三次文化芸術基本構想を作成していくにあたって、かなり広報をしっかりしていかなないと隅々まで行き届かないような気がする。例えば、この文章にもあるが先ほど説明された第三次上田市の総合計画があることは知っているが、中身が膨大で全然頭に入っていない。それぞれの個別の基本構想というものがその下にぶら下がっているということ为先ほどの説明で知識として入った。広報の仕方の大切なポイントを今後の会議に活かしていければと思っている。

(事務局) 広報紙から情報を得ていると答えた方は当時で30%~40%以内。若い方はSNSなど、様々な媒体から情報を得ている。逆に紙ベースが良いという人もおり、年代によって情報の取得方法はまちまちである。仏像展は好評であったと思うが、おっしゃる通り広報は工夫していく必要があると思う。今後どういう形にすれば市民の皆さまに分かっていただけるよう工夫しなければならぬが、今回お願いする文化基本構想については、できるだけ市民の皆さまにも分かりやすいような形になればと思っているので、皆さまのご意見をお聞きしたい。

(委員) まず、策定のスケジュールについて伺いたい。次の10月3日に第二次の基本構想の現状の方針の取組結果を聞いて、その次の10月下旬の会議で第三次の案が出てそれについて議論するということよろしいか。

(事務局) そのような形で今考えている。

(委員) 素案というのはこれから作られるということよろしいか。

(事務局) その予定で考えている。

(委員) 伺いたいのは、どのタイミングで意見を言ったらいいのか、10月のタイミングで言うべきなのか、今、自分の考えていることを述べていいのか、今日は概要的な資料しかないが、自分としてはいろいろな考えがあるが、今日、それを申し上げるべきなのか、次回なのか、どのタイミングで言ったらいいのか。

(事務局) 本日、委員さんのご意見を伺った中で、素案の作成という形にできればと考えている。

(委員) 今、感じていることをお伝えしたい。第二次の基本構想から拝見して感じるのは、10年

で社会は変わったという実感をもって活動させてもらっている。うちは民間の劇場として9年前にオープンし、当初は小劇場として演劇をやる施設としてオープンしたが、劇場で演劇をやっているだけでは収まらない感じになっている。様々な活動を通して文化芸術の枠の中で収まらない時代になってきていると感じている。それがなぜなのかと考えると、特にコロナ以降、経済状態が悪い、インターネットの関係によって分断がどんどん進んでいる。選挙の結果からも分かるように、色々な考えの人がいて、多種多様化している。町全体がいろいろな領域の人たちが繋がり合って新しいものを作ろうとしているということを感じる。それは、我々だけではなくて社会が複雑化し、混迷を極める中で新しい価値が求められている時代だと思っている。そのような中、基本構想を拝見すると文化芸術のことだけが書かれている気がする。今語るべきは、文化芸術と社会との関係で、むしろ文化芸術が中心になって様々な領域や地域とつながって社会全体を構成していくとか社会を作っていく、そんなような考え方が、今10年経って必要な時期になっているのではないかと思う。例えば、長野県で信州アーツカウンシルが発足して、文化芸術をやっている人を伴走支援するなどの活動を活発にしている、そのことによって様々な長野県全体の文化に関わる方の顔が見えてきたということが分かるし、その地域のいろんな所と活動しあっている状況になっていて、そのことから分かるように時代がそういう動きになっているということを感じている。明日、全国のアーツカウンシルのネットワークの会議がうちの劇場で行われることになっていて、合わせて100名近くの方が上田に集まる。全国各地の先進的な事例を紹介しながら文化支援の在り方を会議する大会が上田で行われる。今、芸術文化を取り巻く状況が大きく変わっていると認識しているので、そのことを情報共有させていただきながら、第二次を基にして今起きていること、10年間で何がどう変わったのかということを見ていく中で議論できると、良いのではないかと思います。

(事務局) 委員がおっしゃったとおり、コロナ禍もあり、この10年間でだいぶ変わった。かつては、文化振興事業は教育委員会で担っていたが、現在は文化スポーツ観光部で担当している。県や他市でも文化とスポーツ、観光をそれぞれ連携して取り組むために、同じ組織にしていくと流れがある。委員がおっしゃった他の分野との連携についてはこちらも可能な限り取り入れたいと思う。

(委員) そもそも文化と芸術をくっつけて文化芸術という言葉があるのか。文化と言われると人間の営みとは日々の生活を通して行われているものと、もうひとつ非日常的な(例えば映画、芸術、音楽会)ものがあるのではないか。その辺のところをこの会でクリアにしてもらいたい。

(事務局) 教育委員会で作ったときは生涯学習と文化芸術の二本立てとなっていて、生涯学習の基本構想があって、もう片方に文化芸術振興基本構想があった。生涯学習は基本的には「自分を内面的に高めていく」活動、人生の内面的な豊かさを求めていくのが主な活動であると考えられる。文化芸術は地域に対する波及効果であり、生涯学習よりもっと広い分野がある。最近、塩田の方で日本遺産をやっているが、文化と観光を掛け合わせて、観光客に来てもらう取組を行っている。これから文化だけではなく、芸術だけでもなく、それらをいくつか複合的に合わせて地域を盛り上げていこう、活気を出していこうということを文化芸術振興に関する基本構想に表していければと思っている。文化は文化、芸術は芸術と切り分けて考えるというよりは、文化、芸術こういったものを活かしてこの地域をどういうふうにしていきたいかと思いを巡らしていただければありがたいと思っている。

(委員) 音楽家としての視点でこういうものが組み込まれたらいいなと思うことをお話ししたい。私は10年くらい上田を離れていてドイツに留学するなどドイツでの経験がある。ドイツだと音楽が日常に当たり前にある、生活の一部だった。上田に音楽家として恩返しがしたいと思い、10年くらい前に戻ってきた時に、音楽の仕事を手で自分で見つけるのが大変だったことと、サントミュージゼという良い施設が出来たと思っていたが、東京など遠方からプロのアーティストを呼ぶことが主な活動のような気がして、地元のアーティストに仕事が行き渡っていないという思いが自分の中にある。そういったところが、今後盛り込んでいってもらえたらありがたい。

(事務局) サントミュージゼの方も開館して10年が経ち、これから第三次の運営管理計画をまさしく

総合計画基本構想、そして施設としての運営管理計画を構築しているところである。ちょうど第二期の振り返りもしたばかりで、その中で、地元で活動されているアーティストの方々のために活躍していただく場を設けるかとか地元のアーティストの方々が地域の皆さまのために活躍できる場が出来ているだろうか、というところも自己分析をしているところである。確かに公演という形を取ると東京でご活躍されていらっしゃるアーティストの方々をお迎えして、公演をしてという仕組みにはなるが、サントミュージゼでは芸術家ふれあい事業として、若いアーティストの方々に、公民館や小学校で発表していただけるような仕組みを作ってきた。必ずしも公演という形ではないが、そのような方策を模索している。更に一層地域の皆さまと手を携えてやっていきたいと思っている。

(委員) もう1点、部活の地域移行はこういったところに反映されていくのかどうか。

(事務局) 部活の地域移行(展開)については、ここには要望として出てくる可能性はあるが、地域展開をどのように進めるかとか、どのようにやっていくのかを記載するのは、結構厳しいと思っている。部活の地域展開は、全国的にも文化はスポーツより遅れていて、特に吹奏楽は厳しい状況である。学校が部活から手を離れてしまうと、学校が用意していた楽器は個人持ちになるのかとか、修理代はどうするのか、課題が非常に多い。

(委員) 第一次と第二次の基本構想策定委員会に出席している。今回は取組結果を報告してもらおうと思うが、その中で1つお願いがある。第一次は合併して2年後ぐらいなので、合併に伴う上田市の基本構想を作らなくてはならないということで、どのように地域を盛り上げていかなければならないのかというテーマが1つと、もう1つはサントミュージゼが出来るということが決まっていたので、それに対する要望が出ており、そのようなことを踏まえての基本構想であったと思う。第二次になった時は、サントミュージゼが立ち上がってある程度方向性が見えてきた中、第二次基本構想も総合計画ありきで進んでいくということで、この第二次基本構想が作成されたと思っている。そこから更に10年経って、前回、前々回は教育委員会でやっていたので文化のことだけだった。今回は文化政策課の方で担当していただいているので、より広い視点で、社会的な意味の中でこういったものをどう考えていくか、より概念的なこともテーマになるのかなと思っている。そういったことを受けて二次の評価になってくるので、前回だけではなくて前々回からのところを踏まえて考えてくる、つまり第一次基本構想からのことを考えてくると、先ほど他の委員がおっしゃっていたような地域との兼ね合いはどうだったのか、ということも少し効果として見えてくるのではないかな。前々回は真田とか武石とか丸子とか地域の写真が基本構想に載っていた。前回のところでは見ていただくと、ほぼサントミュージゼの資料で埋まっていたかなという記憶がある。スタンスとしてどういうふうな立場でこれを捉えていくかということがテーマかなと思っている。取組結果について20年をどう評価するか、そして第三次基本構想についてはどのようなスタンスで、というところを深堀していただいて、報告をしていただきながら次回お話をいただくと、基本構想についての素案を次回の議論のテーマとしていいのではないかなと思っている。今回の第三次はどういうふうなスタンスでいくのか、あくまでサントミュージゼを意識してやっていくのか、全体的な地域的な社会的な意義の中で考えるのか旧市町村の地域のことを考えるのか部活の地域移行のことも考えていくのか、スタンスをお示しいただけるとありがたい。

(事務局) 第一次の基本構想策定の時は、4市町村の合併を踏まえて、各地域の文化とか活動を尊重しながら作ったと思う。サントミュージゼが一番の中心であるということに変わりはないと思うが、教育委員会から市長部局へ移っているので、少し違った見方もできるのではないかなと思う。こちらもどのように構想の中に入れていくのか、まだ明確な答えを持っていないので、委員さんからこういった視点で文を組み込んだらどうかということをお勧めいただければ、

できるだけ対応していきたいと考えている。

(会 長) 第二次の時は、確かにサントミュージゼが出来たばかりということもあり、サントミュージゼをどうやって利用していくか、自分たちもどうやったらサントミュージゼで活動をしていくことができるのかということが多かったと記憶している。第三次については、もっと幅広く視野をもって話していければと思っている。

(委 員) 私も部活動の地域展開にとっても関心がある。青少年の文化芸術活動の充実とかそういった部分にフォーカスされてくるのだと思う。私自身の経験からも、地域で子どもたちが文化芸術に関わることで、教えてもらうアウトリーチというよりは、自分で作る活動というものが、メディアも多様になっていて、ある意味何でも社会のことを知ることができてしまうので、追い付いていない感じがする。第一次に策定されたこと、二次に策定されたこと、経過を追って概念的なものの比較の中に青少年の文化芸術活動もどんどん変化していることがあると思う。コロナ禍でなくなっていったものが沢山あると思うので、あったもの、無くなっていったものが見える化されていると、この後何に手を入れていくのかということが見えるのではないかと。部活動というより、地域の文化芸術活動という部分で、学校以外で自分が自分らしくであったり、表現活動ができる場が減っていった感じがするので、未来の担い手がなくなっていくということとイコールなのではと感じている。その辺りも数字として見ることができれば嬉しい。それぞれの地域の中で文化協会など様々な活動がある中、「本市」というのが何を主語にしているのか「本市」の「実情」に合わせての「実情」というのがどこの何のことを言っているのかということところが明確になると、この先に何を残すのか、文化とは残っていくものだと思うので、何を大切にしていきたいかを情報としてインプットできると良いと思う。

(事務局) 地域の劇団、地域の文化団体の数は、全部行政で把握していない。

(委 員) これを機に調べても良いのではと思う。

(事務局) 先ほども申し上げたが、市の後援とかあるのでそういった部分で抽出すればいけるかなと思う。また、頂いたご意見は貴重なご意見なので、可能な限りやらせていただきたいと思う。部活動の地域展開については、地域教育推進協議会があるのでそちらの方でも議論が進んでいる。

(委 員) 真田地域の中で文化芸術団体が毎年減る一方で、人材をというよりも団体自体が無くなっていくような状態である。これは丸子・上田も同じような状況なのではないか。一番は高齢化の問題で、若い方が何を求めているか分からない状況である。そのような中で新しく団体さんに入ってくださいとお願いはしているが、なかなか入っていただけない。それと指導者が高齢化して教えられなくなっていることでサークルが無くなっている。私も長く真田町文化協会に入っているが、私が入った当時、真田町には約40近く団体があつたが今は、10団体程になってしまった。何をしたらいいか分からない中で、文化協会も一生懸命募集したり、色々な手を打っているつもりだが、なかなか成果が出ない。もう少しその辺りのことも取り上げていただければありがたい。現状は、真田に関して言うと、昔は1サークル30人、多いところで70人がサークルにいた時もあったが、現状ではほとんど10人以下というようところで、それが今は10団体くらいというのが現状である。そんな中でこれから続けていくに当たって、何をしたらいいのか皆さんの御意見をいただきながらそんなことも構想の中に何かの形で入れ込めたらと思う。

(事務局) 新しい会員を集めるのは難しいと思いますが、現在検討されている部活の地域展開の中で、今後、中学生が公民館で行われている講座などに参加するという事も考えている。例えば、東信美術会さんでは、公民館で小学生に美術を教えるでもいいという事を考えていただいている。少子化や高齢化は避けられようがない中、新しい会員を増やす事は難しいと思うので、部活動の地域展開の1つの受け皿として、中学生と一緒に活動していくということも今後の活動の方法の1つではないかと思うので御検討をお願いしたい。

(委員) ある団体に中学生が応募してくれて、一緒に活動した。そのことがきっかけで、真田中学の美術関係のサークルとその団体が連携しているという状況もある。

(委員) 都会のアーティストが上田地域に多く移住してきている。例えば東京方面から移住してきた若いアーティストの人たちと、別所の「小唄」を再継承する取組をしたり、単純に保存をするのではなくて、今のアーティストと新しいアートを作っていくとか、新しい講座を作っていくという動きもあって、今の時代に合った継承の仕方もあるのではないかと、色々な方法を探りながら、形を変えながらも、もちろん変えてはいけないものもあるが、変えても大丈夫なものを変えていくとかして文化を継承していく試みをしている。

(委員) 先ほどの他の委員さんのお話の中で、文化芸術に色々な分野があるというお話があったと思う。基本的には、第二次を踏襲していきたいということだったが、「文化芸術は観光・町づくり・国際交流・福祉・教育・産業その関連分野と有機的な連携を図らねばならない」という文言は、文化芸術基本法にあるので、構想の中に入れていただきたい。確か去年の一般質問でも取り上げていたので、ぜひともここは盛り込んでいただきたいと思う。一方で、その関係図みたいなのが文章だけでは分かりにくい。文化芸術はどこにあってどうやって交流しているのか、相関図ではないがイメージが付きやすいビジュアル的なものを基本計画に盛り込んでいただきたい。あと、「文化芸術とはこういうものである」という定義をしていただけるといいのかなと思う。具体的にはどういうものが生きる糧になるのか細かな話だが、文学・演劇・映画のような非日常的なものもそうだし、食文化というところもそうだが、そういうものも含めて「文化芸術で生きる糧です」みたいな重箱の隅を突くような言葉になってしまうが、読んだ人が「これが私が思っているもの。これは文化・芸術なんだ。」と思える言葉にさせていただけるといいのではないかと。

(事務局) 相関図については、検討したい。文化芸術の定義については、文化芸術基本法で記載されているものになるが、もうちょっと分かりやすくお示しできるよう検討したい。

(委員) 上田市には「文化少年団」という素晴らしい団体があり、ダンスや太鼓といった様々な団体に所属している小中学生が、合同でステージ発表等のイベントを一生懸命やっている。様々な分野の皆さんで子どもたちの育成という目標をもってやっていきたいと思っているので、そのようなことも記載いただきたいと思う。

(事務局) 文化少年団についても記載していきたいと思う。

(委員) スケジュールを見ていると、10月3日に第二次基本構想の取組結果についての報告があるが、約1か月の間に10月の下旬に第三次基本構想というこのスケジュールが気になっている。こんな短時間でできるのか。今日いただいた意見は、むしろ第二次文化芸術振興基本構想の結果どうだったかということをおっしゃるのではなくて、もう第三次に盛り込むこと、検討するという言葉に変えているので、今日いただいた御意見を踏まえて第二次基本構想の取組結果をきちっと分析してスケジュールに間に合うようにさせていただきたい。

それともう1つ、文化芸術活動をしている方を、行政がすべて把握する必要はないと私は考えている。逆に管理されるということになるので、そういう方向には向かってほしくない。

(事務局) 委員からいただいた意見を参考にさせていただいて次回の会議に活かしたい。

(事務局より、次回会議の日程確認)

10 閉 会 (増田会長)



